月刊 しばうら

2023年 10月号

牛肉営業部

令和5年度全国肉用牛枝肉共励会

セリ販売日10月27日（金）

令和5年度全国肉用牛枝肉共励会が、来る10月24日㈫～10月27日㈮にわたり開催されます。当共励会は、肉用牛肥育技術の確立と枝肉の肉質向上ならびに経済性の増進に資するため、東京食肉市場に出荷実績を持つ全国各地の出荷者によって肥育された牛が、農林水産大臣賞、東京都知事賞を始めとした数々の栄誉を競います。出品頭数は500頭の上場頭数にて開催され、和牛去勢牛が271頭、乳用去勢牛及び交雑去勢牛が68頭、和牛牝牛が161頭を予定しております。

また、本年は新型コロナウイルス感染症が2類から5類に移行したことから、褒賞授与式を実施いたします。

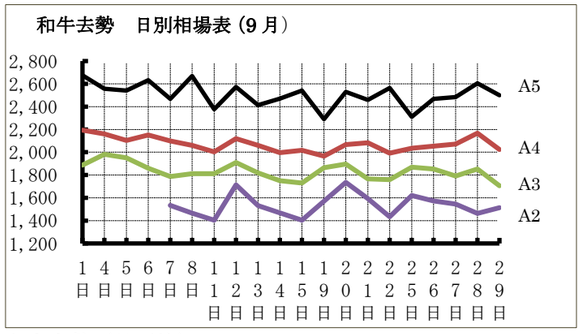
＜行事予定＞

10月24日（火）午前10時00分より出品牛測定（和牛牝）
25日（水）午前8時30分よりと畜解体（和牛牝）
午前10時00分より出品牛測定
（乳用去勢牛及び交雑去勢牛・和牛去勢牛）
26日（木）午前8時30分よりと畜解体
（乳用去勢牛及び交雑去勢牛・和牛去勢牛）
27日（金）午前6時30分より枝肉審査
午前8時45分よりせり販売

＜9月の相場動向＞

相場動向は大きく変わらず、等級によって僅かな増減があるものの、全品種で前月並み・前年割れの展開となった。輸入量が減り続けていることからも牛肉の需要低迷は顕著となっており、節約志向にあることが見てとれる。

国外市場についても、8月の通関実績は数量ベースで前年比97.1%、金額ベースで94.0%と前年割れとなった。また、訪日外国人の入国者数は8月も200万人を超え216万人となっているが、インバウンド消費の鍵を握る中国人の訪日客は本格的とは程遠い状況となっている。



和牛去勢（月平均）

	加重平均	前年同月比		前月比	
A5	2,531円	－55円	97.9%	+73円	103.0%
A4	2,079円	-223円	90.3%	+12円	100.6%
A3	1,819円	-226円	88.9%	-13円	99.3%
A2	1,551円	-221円	87.5%	+23円	101.5%

交雑去勢（月平均）

	加重平均	前年同月比		前月比	
B4	1,636円	-51円	97.0%	±0円	100.0%
B3	1,469円	-36円	97.6%	+35円	102.4%
B2	1,263円	-56円	95.8%	－4円	99.7%

乳牛去勢（月平均）

	加重平均	前年同月比		前月比	
B3	－	－	－		－
B2	772円	-208円	78.8%	-5円	99.4%

＜10月の牛肉輸入量予測＞

財務省が発表した輸入通関実績によると、8月の輸入量は前年同月比14.7%減の4万5,669ｔで、うちチルドは11.5%減の1万7,325ｔ、フローズンは前年同月比16.5%減の2万8,344ｔと共に下回った。

農畜産業振興機構によると9月の牛肉輸入数量は、前年同月比26.8%減の3万8,000t（チルド2.8%減、冷凍38.4%減）、10月は22.4%減の3万7,700t（チルド10.8%増、冷凍36.6%減）と予測している。10月のチルドは豪州産の現地生産量の増加から前年を上回ると予測、フローズンは殆どの国からの輸入量が少なくなる見込みで、大きく下回ると予測している。

輸入牛肉通関量		8月	前年同月	前年同月比
チルド	豪州	7,898	6,689	118.1%
	米国	8,089	10,092	80.2%
	その他	1,338	2,791	47.9%
	合計	17,325	19,572	88.5%
フローズン	豪州	12,362	11,515	107.4%
	米国	9,742	12,322	79.1%
	その他	6,240	10,123	61.6%
	合計	28,344	33,960	83.5%

出典：食肉速報　　単位：t

＜10月の全国出荷頭数予測＞

農畜産業振興機構による10月の出荷予測頭数は、全体で前年比103.3%の9万5,600頭で、品種別にみると和牛は3.1%増の4万1,700頭、交雑種は3.6%増の2万2,600頭、乳用種は5.4%増の2万9,900頭と予測している。東京食肉市場の10月のと畜頭数は7,830頭を予定しています。

＜10月の牛枝肉相場見通し＞

10月に入っても気温が高い日が続き、スライス需要へのシフトは遅れており、動きは鈍い。円安傾向と消費者の節約志向も継続しており、国内の牛肉需要・消費意欲は低迷すると考えられる。また、福島第一原発事故の処理水放出問題もあり、中国の国慶節によるインバウンド需要についても見込みは小さいのではないかと予想される。

国内需要が低迷していることから、輸出に活路を見出す流れもあるが輸出先でも値崩れを起こしている模様で、悪循環のサイクルに入っている。その為、年間最需要期である年末年始までは前年実績割れが続く状況が想定される。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,350～2,800	B4	1,500～1,700
A4	2,100～2,300	B3	1,350～1,450
A3	1,900～2,000	B2	1,200～1,300
A2	1,700～1,850		
乳牛去勢			
B3	900～1,000		
B2	750～850		

豚肉営業部

8月の全国と畜頭数は、前年同月比0.9%減の129万6,000頭となった。また8月の豚肉通関数量は7万3,930t（前年同月比14.6%減）と前年を下回り、前月比では1.3%の減少となった。内訳はチルドが3万5,456ｔ（4.7%増）と増加に転じたが、フローズンは3万8,475t（27.0%減）と大幅に減少した。

2022-2023年の需給量と推定期末在庫						
	供給量		推定期末在庫		推定出回り量	
月	生産量	輸入量	国産物	輸入物	国産物	輸入物
8	70,579	86,492	20,365	207,966	71,378	78,577
9	72,682	72,520	19,371	204,472	73,540	76,014
10	75,562	75,744	19,698	196,107	75,147	84,109
11	81,124	87,886	18,751	195,556	81,933	88,437
12	79,634	68,853	19,816	185,413	78,413	78,996
1	77,331	74,837	18,538	188,666	78,557	71,584
2	72,899	71,250	19,905	189,121	71,425	70,795
3	81,586	69,027	20,232	189,572	81,112	68,576
4	73,794	109,570	20,573	204,045	73,312	95,096
5	76,116	89,726	20,193	223,902	76,372	69,869
6	73,486	81,311	19,586	225,208	73,928	80,005
7	68,264	74,831	20,758	220,067	66,926	79,972
8	70,175	73,862	21,032	217,704	69,796	76,225
比	100%	85%	103%	105%	98%	97%

出典：農畜産業振興機構　比：最終月の前年同期比　　単位：t

8月豚肉通関実績					
アメリカ	13,741	85.6%	デンマーク	3,782	52.9%
カナダ	17,886	113.9%	スペイン	11,671	62.4%
メキシコ	3,808	180.6%	メキシコ	8,039	89.3%
			アメリカ	2,766	81.5%
			カナダ	2,674	91.6%
合計	35,456	104.7%		38,475	73.0%

単位：t

＜9月の豚取引の推移＞

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
1日	54,200	764	742	871
4日	62,300	766	732	645
5日	62,200	759	726	855
6日	61,200	745	728	690
7日	60,900	754	737	572
8日	56,800	770	746	817
平均	59,600/日			741/日

出荷頭数は低調に推移し、全国と畜頭数は6万頭を割り込む日もみられた。9月に入っても厳しい猛暑が続き肉豚の増体への影響があったことで出荷のキャンセルも多くみられた。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
11日	62,200	754	732	638
12日	62,900	762	746	784
13日	62,600	778	764	653
14日	61,800	787	752	608
15日	63,000	756	734	954
19日	70,100	763	715	699
20日	65,900	666	621	957
平均	64,071/日			756/日

全国的に相場は底堅く推移し、上物価格は700円を上回る高値が続いた。需要については厳しい残暑の影響によって鍋物商材への移行は無く、末端消費は決して順調ではなかったが、出荷頭数が少ない状況が継続したことで締まった展開となった。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
21日	64,400	612	597	862
22日	63,100	607	591	979
25日	65,600	610	588	802
26日	66,500	607	586	845
27日	64,900	618	582	678
28日	67,300	621	573	701
29日	61,900	597	582	1,021
平均	64,814/日			841/日

引き続き全国と畜頭数は6万頭台で推移した。ようやく朝晩の気温が低くなり始めたが、出荷頭数は増えなかった。連休中の荷動きは堅調だったが、異例の高値相場が続いたことで少しずつ相場は下がる展開となった。

＜10月の豚枝肉相場見通し＞

農林水産省による令和5年10月の肉豚出荷予測では145万頭（前年比104%）と予測している。

当市場の10月集荷予定せり頭数は1万8,000頭、1日当たりでは約857頭を見込んでいます。

農畜産業振興機構によると10月分の豚肉輸入見込数量は、総量で7万1,800t（同94.8%）、内訳は冷蔵輸入量が3万1,100t（同110.3%）、冷凍輸入量は4万700t（同85.6%）と予測。

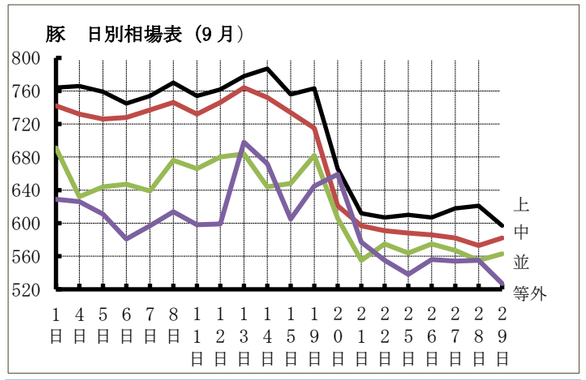
冷蔵品輸入量は価格優位性のあるメキシコ産の輸入量が増えたことに加え、前年のカナダ産の輸入量が少なかったこと等から、前年同期をかなりの程度上回ると予測する。また、3ヵ月平均でも前年同期をかなりの程度上回ると予測する。

冷凍品輸入量は国内の輸入品在庫が多いことや、欧州産の現地相場の高騰等から、かなり大きく前年同月を下回ると予測する。同じく3ヵ月平均でも前年同期をかなり大きく下回ると予測する。

10月は気温の低下に伴って鍋物需要がようやく本格化するとみられ、バラなどのスライス材を中心に荷動きが良化することが期待される。また、消費者の節約志向が強まる中、モモなどの小間材やひき材も堅調に推移することも予想される。

供給面では今後、年末に向け肉豚出荷頭数は徐々に増加することに加え、これまでの残暑による出荷遅れの分が重なることで、出荷動向次第では枝肉相場が下げ基調となる展開も予想される。

以上のことから当市場の上物平均価格は600円前後、中物平均価格570円前後の展開と予測する。



東京都港区港南2－7－19

東京食肉市場株式会社

TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127